



**サーキットの雄が放つ
DUPホイールの魅力**

レイズと言えば、4輪レースに興味がある人なら必ず知っていると云うほどの、日本屈指のスポーツホイールメーカーである。その技術力は高く、「スーパーGT」や「フォーミュラ・ニッポン」などといった国内レースはもちろん、2007年からは世界最高峰のF1にも進出。テクニカルパートナーとして「ウィリアムズ・トヨタ」にホイールを供給している。

そうした実績からスポーツイメージの強いレイズだが、みなさん承知の通り、「VERSUS」や「SEBRING」「A/X」「GARCIA」など、数多くのブランドを抱えるドレスアップホイールメーカーでもあるのだ。

サーキットで実績を残すメーカーが送るドレスアップホイール。

そこにはどんな特徴があるのだろうか。今回、レイズの一山貴氏にお話をうかがう機会を得た。

「レイズがホイールを作る上で一番重視しているものは、ホイールとしての基本性能、特に安全性です。意外かもしれませんがサーキットでも最も要求されるのは安全性なんです。縁石にヒットした衝撃でホイールが壊れでもしたら、大事故につながりますからね。それは一般道でも同じです。特にミニバンやワゴンのドレスアップカーオーナーさんには気をつけていただきたい。なにせクルマの車重が重い分だけ、大きな負荷がホイールにかかりますから。それにドレスアップ用として良く用いられる鋳造ホイールは、デザイン自由度が大きい反面、鍛造と比べて割れやすいと言う欠点を抱えているんです。もちろんレイズはドレスアップホイールにも十分な耐久性を確保しています。私どものホイールは、鍛造、鋳造問わず、全ての製品でVIAの定める基準を超える耐久性を実現しています。VIAとは自動車用軽合金ホイール試験協議会が実施する、世界で最も厳しいと言われるホイールの品質試験のことだ。そこで求められる以上の耐久性を全ての製品で実現しているという事実。そこにレイズがリリースするホイールのクオリティがうかがえる。

ところでもう一つの側面、ドレスアップホイールの命である「デザイン」については、レイズにはどのような特徴があるのだろうか。「色々あって一言では説明できませんが、常にトレンドの最先端を取り入れていくのは心がけています。例えば今回発売となりました「スーパーグリフフォニーX777

m」。このアイテムにはフェイェスの逆ソリ、2種類のスポークによるダブルフェイス、曲線のスポークデザインなど、最新の流行デザインを数多く取り入れてあります。これらの特徴は、おそらく来年以降のドレスアップホイールのトレンドとなるでしょう。

最後に、こうした性能やデザインなどの他に、レイズが製品作りの中で意識しているものを訪ねてみた。するとやや意外な答えが返ってきた。

「それはエコです。もちろんデザインを重視するドレスアップホイールでは、燃費や転がり性能などで環境に貢献するのは難しいのですが、それでも製造段階でできることはやっています。例えばホイールの表面加工。ヒカリ系のデザインでは今でもメッキ処理が主流ですが、私どもは最近スパッタリングを多用しています。もちろんデザイン上の理由もあるのですが、実はメッキ処理をすることで、その過程でどうしても有害な六価クロムが出てしまうからなんです。同じ系統のデザインならば、より



最近環境への配慮も意識するようになったというホイールの製造現場。クルマ趣味を持つ人間として、頭が下がる部分だ。

環境に優しい方向にシフトしていくような心がけています」

それはクルマ文化の一翼を担う存在として、メーカーの見識がうかがえる答えだった。

サーキットで培われた高い技術力と、トレンドの最先端を行くデザイン性。環境にも配慮を見せるメーカーとしての見識の高さ。

レイズはまさに、日本を代表するホイールメーカーとしてふさわしい風格をたたえていた。



社内テストの風景。衝撃を与える、捻る、タイヤを削らせて50万回転させるなど、その内容は多岐に渡る。

ホイールを作る上で最近レイズが意識しているのが「エコ」。同じヒカリ系のデザインでも、新作ではメッキ加工ではなく、スパッタリングを採用している。デザイン上の理由の他、加工の際に有害物質を出さないからとのことだ。



レースシーンでのレイズホイールの評価は高い。国内最高峰の箱根レース「スーパーGT」では、写真の通りとんどのマシンがレイズの6スポークホイールを装着している。また2007年からはF1にも進出「ウィリアムズ・トヨタ」にホイールを供給することとなった。



～ RAYS インタビュー ～

F-1やSuperGTなど、最高峰のレースにアイテムを供給する一方VERSUSやSEBRING、A/Xなど多数のドレスアップホイールブランドを抱えているレイズ国産ホイールメーカーの雄が見つめる最新のホイール事情とは



忙しい中、快く取材に対応してくださったレイズ企画部の一山貴氏。新しいホイールを企画する上で最近注目しているのは、やはり「サブカルチャー」とのこと。ちなみに100円アイスにも造詣が深く、一家言を持っている。

